

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490400049	事業の開始年月日	平成20年8月1日
		指定年月日	平成20年8月1日
法人名	株式会社 保健科学研究所		
事業所名	グループホーム 本牧つばき園		
所在地	(231-0823) 横浜市中区本牧大里町24-10		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年1月25日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街という立地ながら、近所には大きな公園もあり散歩などでは四季を感じることが出来ます。更なる地域密着を目指し、町内防災訓練に参加、運営推進会議では新たに民生委員が参加するなど、ゆっくりではあるが地域に入ることができている手ごたえがある。餅つき大会など地域行事には積極的に参加をしている。園庭ではわずかなスペースに菜園を作り、成長と収穫の喜びを入居者とともに感じることが出来ます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年2月19日	評価機関 評価決定日	平成26年4月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点>
◇利用者一人ひとりへの対応
・職員は、利用者一人ひとりが気持ちよくゆったり過ごせるように、利用者の思いやくせ、好き嫌いを把握したものを記録して、全職員で共有している。利用者によりバラの香りの入浴剤を使ったり、副菜の魚の皮を取り除いたり、個々の好みに応じて、きめ細かく対応している。
◇家族とのコミュニケーションの工夫
・運営推進会議はその都度テーマを決め、家族への出欠葉書には自由記載欄を加えたところ、欠席者からの意見も多く届くようになった。
・今まではホームの行事を中心にした「ホーム便り」を月に1回家族に郵送していたものを、本人の体調や様子を、写真と共に担当の職員が以前より細かく記載するように変更して、家族から好評を得ている。

<事業所が工夫している点>
◇感染症対策
・運営推進会議出欠の葉書に多くの保護者から、感染症予防のために、リビングや居室を次亜塩素水を薄めた水で加湿する効果が寄せられ、さっそく実行している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 本牧つばき園
ユニット名	はまなす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットで職員の見やすい場所に理念を掲示している。	・理念「人格を尊重し家庭に近い環境でのサービス提供、地域に融合する」を記載したカードを常に携帯し理念の家庭的な環境の提供の実現のために、一人一人のリズムを大切にしている	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、回覧板を閲覧することが可能。地域行事に招待され、参加する関係ができています。	・町内会に加入し、町内会行事の餅つき等に利用者が参加している。 ・中学生や小学生の福祉体験や慰問訪問のあと、中学生からクリスマスカードを贈られる等、地域のいろいろな世代と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子供110の番施設として地域の拠点としているが活動的などころはできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族にはその都度テーマを記載した参加案内を出している。欠席の方にも会議の存在を知ってもらおうと、返信には意見を記載できる欄を設け、会議で報告している。	・会議には、家族の他、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員が出席して、年5回開催している。 ・管理者交替の報告や、感染症対策での意見交換、回覧板の回覧要請等をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケアプラザには日常的に管理者が挨拶に出向いている。区役所などの提出書類も郵送ではなく来庁することで関係が築けるよう勤めている。	・中区役所高齢・障害支援課や保護課等とは、書類の届出の際に入居者情報等の交換をしている。 ・本牧和田地域ケアプラザが主催する地域ケア会議へも参加予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員それぞれが現在の介護、またこれから試みることに、常に身体拘束と結びつけて考えられるようになった。	・身体拘束をしないためのマニュアルを整備し、具体的なケースを例に、拘束をしないケアについて職員が話し合っている。 ・玄関は施錠をしていない。	・各ユニットの入口も開錠しておくことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員それぞれが現在の介護、またこれから試みることに、常に虐待と結びつけて考えられるようになった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議でケアプラザの委員から講義を行ったことがあったが、定期的とまではいかない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や契約書は誤解が無いように、少々時間がかかっても十分に説明し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見を伺う機会があるので家族会は別途設けてはいない。今後は運営推進の内容を家族にどうバックするか検討する。	・運営推進会議の出席予定者への出欠葉書に、テーマとしているインフルエンザ等感染症予防についての意見を求めたところ、次亜塩素酸の加湿の意見が多く寄せられ、早速感染症対策に反映させた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で職員からの提案を聞く機会がある。	・ユニット会議や日常業務を通して、記録の取り方、行事のやり方、利用者への対応方法など様々な意見・提案が出されている。記録の取り方などは、業務の効率化につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全てを叶えることは難しいが、処遇改善が始まったことで収入的な改善はできている。環境・業務面では必要な備品を購入したことで改善が図れている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期内部研修、入社時のオリエンテーションを行い、定期ユニット会議では疑問質問に答える等機会を設けている。外部研修においては希望者は参加させる準備がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内で、管理者は月に1回の管理者会議を通じて情報交換している。また行事では行き来、参加することで交流を図っている。待機者を紹介し合うこともしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学をしていただき、面談を行うことで入居希望者のニーズを探り、入居するしないに関せず回答できるものはその場で行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学をしていただき、面談を行うことで入居希望者のニーズを探り、入居するしないに関せず回答できるものはその場で行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学をしていただき、面談を行うことで入居希望者のニーズを探り、入居するしないに関せず回答できるものはその場で行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において当たり前に行えるところは任せている。歩行が多少不安定な方でも下膳を行うなど支援しており、入居者の中にそれが定着している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	我々は入居後も家族に対し協力を仰ぎ、面会、行事参加の以来を通じ、施設、入居者、職員との関係長期間維持できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊は自由に行っている。現在でも古い友人の面会がこれら入居者が少なくない。	・友人が面会に来た場合は、居室でゆっくり過ごせるように支援している。 ・今までの関係が途切れないように、知人や友人との年賀状の作成、投函、電話の取次ぎ等を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外部だけでなく入居者同士の関係ができており、一方の利用者の居室でテレビ鑑賞をされる姿などはしばしば見られる。スタッフ一緒にカレンダー作成、ウェス切り、雑巾縫いなど行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得なく退去された入居者家族からは現在でも近況報告をふまえた季節の葉書が届いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が干渉し過ぎないように一人の時間も尊重している。	・利用者の思いは、日常のしぐさや会話、特に入浴中や夜勤の時等にじっくり聞いて、介護記録に記載し、職員間で共有している。 ・意思表示が困難な利用者は、複数の選択肢を用意して言葉かけしたり、表情から憶測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握しきれてはいないが、会話の際、話題の端々に収集したことを盛り込むなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議の際に入居者全員のモニタリングをし、一ヶ月を振り返り、情報共有や見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議の際に入居者全員のモニタリングをし、一ヶ月を振り返り、情報共有や見直しを行っている。	・家族や医師・看護師から情報を得て、ユニットの職員による毎日のモニタリングや毎月のカンファレンスでの話し合いをもとに担当者が介護計画を作成している。 ・見直しが必要になった場合は、詳しい説明文を添えた計画書を家族に郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの目標に沿った、ポイントを押さえた記録はできていない。気づきや情報の伝達は、ノートや口頭で伝達ができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な面会や外出などのニーズも受け入れることで対応しているといえる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山下公園、馬車道の紅葉ドライブ、地元消防署による防災訓練、また地元神社への初詣、施設安全祈願を行う等、資源は大いに利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に確認し、協力医療機関を強制していないが、現在は入居者全てが協力機関に納得され、週1回の訪問看護、隔週の往診を受けられている。	・利用者または家族に希望を聞いた上で、協力医（内科）のかかりつけ医から隔週の往診を受け、歯科医の往診は必要な時に来てもらっている。 ・整形外科には家族が付き添い、無理な場合は職員の支援により受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療報告書に記入し、訪問の際に指示を受け、コメントの記載をしてもらう。突発的な相談は24時間オンコール体制にて指示を仰げる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを通じて日頃の生活状況や入院に至った経緯を提供し、面会に行く等、近況の情報を収集し職員へバック退院後もスムーズに生活に戻るよう勤めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携を行っている以上やりませんという伝え方はしていない。ケアマネと相談し、家族にはタイミングを計り面談を設けて現状を伝え、今後に向けた話を始める。	・現状では、医療との連携体制面から終末期対応は困難であり、重度化した場合は医師の指示で入院等の支援を行っており、入居時に本人・家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変にはリーダーから管理者と報告ルートが明確になっている。応急処置については定期的な学習の場は持たれていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	備蓄品などの準備は問題ない。町内会でやる防災訓練にも参加し、防災部に挨拶できている。今後は施設の訓練に町内防災部を招待することが課題である。	・事業所の年1回昼間想定避難訓練の他、町内会の防災訓練に管理者が参加して、地域の協力を得られるよう努めている。 ・食料や水を3日分、携帯ガスコンロや懐中電灯も備蓄している。	・夜間想定防災訓練や、町内防災部や近隣の協力が実現することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居に対する言葉使いには常に注意をし、排泄や更衣においてはプライバシー配慮に努めている。誤った職員にはリーダーより注意をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用者の人権の尊重」を理念の第一に掲げ、言葉遣いには特に留意し、不適切な言動があれば職員はお互いに注意し合っている。 ・利用者のプライバシーに関する話題は出さないように留意している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時や外出時の衣類の決定などを促している。自己決定できない方にはふたつから選択していただく方法をとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を理由に希望に添えないこともあるが、入浴の順番など、簡単なことから取り組んでいく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や起床時には手近な衣類で済ませるのではなく、複数お衣類から選択ができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間複数回の外出企画では普段では食べる機会のない寿司を必ず取り入れるようにしている。食材委託だが、飽きないように別注食や正月には刺身を準備する等、工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・配達食材の他に、栽培した野菜を使うこともあり、調理法や味付けを利用者に合わせて工夫している。 ・節分の恵方巻きを皆で手作りする等の行事食や、お寿司・フライドチキンなどの外出を楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は排泄表と一緒に記録することでIN、OUTが分かるようにしている。食事量も毎食記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア以外に、散歩時やレクの後に、うがい薬でのうがいをやっている、		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表のパターンに習い、近い時間での誘導、声掛けを行い、なるべくトイレでの排泄ができるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表で個人のパターンを把握し、様子を見ながら声掛けしてトイレでの排泄を支援し、昼間おむつの使用が減った利用者もいます。 ・失敗した場合も利用者が傷つかないように速やかに対応し、さりげなく処理している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤にのみ頼らず、普段から自然な便通ができるようにおやつに乳製品や寒天製品を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は決めてしまっているが1日で9名が入っていただくことで週に3回の入浴が実施出来ている。またゆずや菖蒲等季節を感じる演出もしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の健康状況を見ながら、全員が週3回の入浴ができるようにしている。 ・入浴を好まない利用者には、言葉かけや職員を変える、入浴剤の種類等の工夫をし、無理強いのないよう対応している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼までも昼寝を取り入れている。冷暖房の調整で心地良い安眠を演出している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬情報があり、変化があれば見ることができる。症状の変化や服薬変更の相談なども看護師、医師と相談できる環境にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを大事にし、食事の下膳は各自で行う、またテーブル拭きなどお願いしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課とし、ドライブなど外出の企画を取り入れている。	・利用者の体調に考慮して買い物、近所の散歩、外気浴など、外に出る機会を積極的に設けている。 ・初詣や三溪園での観梅会などの年間行事のほか、江の島・鎌倉ドライブなど遠出も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在hあ機会がない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状作成をしたり、希望があれば電話はできる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者作品や、外出の写真などを廊下に掲示している。	・南向きのダイニングは明るく清潔で、掃除も行き届き、適切な温湿度が保たれ居心地のよい環境である。 ・リビングは畳で、利用者と職員によるお雛様等の季節の作品を壁に飾り、落ち着いた雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には3人がけソファを配置し、見やすい場所にTVを設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物とするものは予め契約時に説明し同意を得ている。他は自由に居室を作ってもらっている。	・利用者は使い慣れたベッドや家具、ぬいぐるみや家族の写真などを持ちこみ、カーテンとシーツを好みの色で統一するなど、自由に自分らしい部屋で過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前を。風呂、トイレには表示を張り出している。		

事業所名	グループホーム 本牧つばき園
ユニット名	りんどう

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/>	1, 毎日ある
	<input type="checkbox"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="checkbox"/>	3, たまにある
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての家族と
	<input type="checkbox"/>	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="checkbox"/>	3, 家族の1/3くらいと
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ毎日のように
	<input type="checkbox"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="checkbox"/>	3, たまに
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/>	1, 大いに増えている
	<input type="checkbox"/>	2, 少しずつ増えている
	<input type="checkbox"/>	3, あまり増えていない
	<input type="checkbox"/>	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="checkbox"/>	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 職員の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="checkbox"/>	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットで職員の見やすい場所に理念を掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、回覧板を閲覧することが可能。地域行事に招待され、参加する関係ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子供110の番施設として地域の拠点としているが活動的なところはできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族にはその都度テーマを記載した参加案内を出している。欠席の方にも会議の存在を知ってもらおうと、返信には意見を記載できる欄を設け、会議で報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケアプラザには日常的に管理者が挨拶に出向いている。区役所などの提出書類も郵送ではなく来庁することで関係が築けるよう勤めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員それぞれが現在の介護、またこれから試みることに関し、常に身体拘束と結びつけて考えられるようになった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員それぞれが現在の介護、またこれから試みることに関し、常に虐待と結びつけて考えられるようになった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議でケアプラザの委員から講義を行ったことがあったが、定期的とまではいかない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や契約書は誤解が無いように、少々時間がかかっても十分に説明し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見を伺う機会があるので家族会は別途設けてはいない。今後は運営推進の内容を家族にどうバックするか検討する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で職員からの提案を聞く機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全てを叶えることは難しいが、処遇改善が始まったことで収入的な改善はできている。環境・業務面では必要な備品を購入したことで改善が図れている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期内部研修、入社時のオリエンテーションを行い、定期ユニット会議では疑問質問に答える等機会を設けている。外部研修においては希望者は参加させる準備がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内で、管理者は月に1回の管理者会議を通じて情報交換している。また行事では行き来、参加することで交流を図っている。待機者を紹介し合うこともしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学をしていただき、面談を行うことで入居希望者のニーズを探り、入居するしないに関せず回答できるものはその場で行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学をしていただき、面談を行うことで入居希望者のニーズを探り、入居するしないに関せず回答できるものはその場で行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学をしていただき、面談を行うことで入居希望者のニーズを探り、入居するしないに関せず回答できるものはその場で行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において当たり前に行っているところは任せている。歩行が多少不安定な方でも下膳を行うなど支援しており、入居者の中にそれが定着している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	我々は入居後も家族に対し協力を仰ぎ、面会、行事参加の以来を通じ、施設、入居者、職員との関係長期間維持できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊は自由に行っている。現在でも古い友人の面会がこられる入居者が少なくない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外部だけでなく入居者同士の関係ができており、一方の利用者の居室でテレビ鑑賞をされる姿などはしばしば見られる。スタッフ一緒にカレンダー作成、ウェス切り、雑巾縫いなど行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得なく退去された入居者家族からは現在でも近況報告をふまえた季節の葉書が届いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が干渉し過ぎないように一人の時間も尊重している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握しきれてはいないが、会話の際、話題の端々に収集したことを盛り込むなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議の際に入居者全員のモニタリングをし、一ヶ月を振り返り、情報共有や見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議の際に入居者全員のモニタリングをし、一ヶ月を振り返り、情報共有や見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの目標に沿った、ポイントを押さえた記録はできていない。気づきや情報の伝達は、ノートや口頭で伝達ができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な面会や外出などのニーズも受け入れることで対応しているといえる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山下公園、馬車道の紅葉ドライブ、地元消防署による防災訓練、また地元神社への初詣、施設安全祈願を行う等、資源は大いに利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に確認し、協力医療機関を強制していないが、現在は入居者全てが協力機関に納得され、週1回の訪問看護、隔週の往診を受けられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療報告書に記入し、訪問の際に指示を受け、コメントの記載をしてもらう。突発的な相談は24時間オンコール体制にて指示を仰げる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを通じて日頃の生活状況や入院に至った経緯を提供し、面会に行く等、近況の情報を収集し職員へバック退院後もスムーズに生活に戻れるよう勤めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携を行っている以上やりませんという伝え方はしていない。ケアマネと相談し、家族にはタイミングを計り面談を設けて現状を伝え、今後に向けた話を始める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変にはリーダーから管理者と報告ルートが明確になっている。応急処置については定期的な学習の場は持たれていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	備蓄品などの準備は問題ない。町内会で行う防災訓練にも参加し、防災部に挨拶できている。今後は施設の訓練に町内防災部を招待することが課題である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居に対する言葉使いには常に注意をし、排泄や更衣においてはプライバシー配慮に努めている。誤った職員にはリーダーより注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時や外出時の衣類の決定などを促している。自己決定できない方にはふたつから選択していただく方法をとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を理由に希望に添えないこともあるが、入浴の順番など、簡単なことから取り組んでいく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や起床時には手近な衣類で済ませるのではなく、複数お衣類から選択ができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間複数回の外出企画では普段では食べる機会のない寿司を必ず取り入れるようにしている。食材委託だが、飽きないように別注食や正月には刺身を準備する等、工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は排泄表と一緒に記録することでIN、OUTが分かるようにしている。食事量も毎食記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア以外に、散歩時やレクの後、うがい薬でのうがいをやっている、		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表のパターンに習い、近い時間での誘導、声掛けを行い、なるべくトイレでの排泄ができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤にのみ頼らず、普段から自然な便通ができるようにおやつに乳製品や寒天製品を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は決めてしまっているが1日で9名が入っていただくことで週に3回の入浴が実施出来ている。またゆずや菖蒲等季節を感じる演出もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼までも昼寝を取り入れている。冷暖房の調整で心地良い安眠を演出している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬情報があり、変化があれば見ることができる。症状の変化や服薬変更の相談なども看護師、医師と相談できる環境にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを大事にし、食事の下膳は各自で行う、またテーブル拭きなどお願いしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課とし、ドライブなど外出の企画を取り入れている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在hあ機会がない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状作成をしたり、希望があれば電話はできる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者作品や、外出の写真などを廊下に掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には3人がけソファを配置し、見やすい場所にTVを設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物とするものは予め契約時に説明し同意を得ている。他は自由に居室を作ってもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	各居室には名前を。風呂、トイレには表示を張り出している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 本牧つばき園

作成日 平成26年4月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	ユニット玄関が施錠したままである。開場時間があると望ましい。	ユニット玄関が施錠したままである。開場時間があると望ましい。	出勤者が揃う時間帯を決めA/PMで1時間から開始し、徐々に伸ばしてみる。	1年間
2	13	夜間想定防災訓練で町内の方と協力した訓練ができる。	年内に訓練を実施する。	防火管理者と町内防災委員と協力し、運営推進会議などで話を進めていく。	1年間
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。